

# キャンヘルプタイランド

## ネットワーク通信

2008年10月26日発行 第43号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

タイ人を相手に日本語を教えていると、授業をしているだけでも、日本とタイとの国民性の違いを垣間見ることができ興味が尽きません。

その違いの例をあげればキリがありませんが、とりわけ、タイの人たちが持つ異質なものをそれはそれとして認めようとする寛容さはわれわれ日本人が見習わなければならないものの一つではないかと思います。

例えば、男の子のような女の子、女の子のような男の子。それを隠すことなく自然にふるまっている子の何と多いことか。もちろん、タイにも自分を表に出せずに思い悩んでいる人や、そういうクラスメイトを白い目で見える人もいないわけではないでしょう。しかし、あっけらかんとしている学生数は日本の比ではありません。大学で教えていた時など、服装には随分うるさい学校でした（タイの大学には制服があります）が、男子学生が女子用の制服を着ていようが、女子学生が男子用の制服を着ていようが、指定の制服を着てさえいれば、それを先生に咎められることはまずありませんでしたので、新入生がある日、突然制服を変え、どんどんきれいになっていくのを見るのも一度や二度ではありませんでした。そういった学生は苛められるわけでも疎外されるわけでもなく、女子グループに参加し、そのグループのリーダー的存在になっていくのが普通でした。反対に、男子用の制服を着て、かわいい女の子と手をつないで歩く女子学生、「先生、僕の彼です」と恋人を紹介してくれる男子学生等など、異質だと考えてしまいがちな存在が普通にそれぞれの社会に溶け込んでいて、周りもそれを興味本位で見たりすることはあっても、だからと言ってことさら問題視したりしないという緩さ。ついには、そんなことにいちいち驚くことが馬鹿馬鹿しくさえ思えてきました。

また、優秀な学生を見る目も違います。試験が先生から返却されたとき、私の知る限り、日本の学生は自分の点数をむやみに見せびらかすようなことはしません。点数がよければよいほど、その学生は自分の点数をオープンにする際、ひけらかすような見せ方にならないよう細心の注意を払う必要があるのです。大相撲で勝利の後にガッツポーズした力士が品位に欠けると批難されるように、自分の優位性をことさら誇示してはならないという暗黙のルールがそこに存在するからです。それを破れば、妬みを生み、今の学校だとそれがいじめの種になるのかもしれない。

一方、タイの学生は、返却された試験問題をみんなで見せ合い、いい点を取った学生は無邪気に喜び、周りもそれを当り前のことのように受け止めています。ここが日本だったら苛められるだろうに、と私のほうはハラハラさせられるのですが、自分の点数をひけらかすようなことがあっても、そこに聳響や妬みを生むような雰囲気は感じられま

せん。努力していい成績をとった学生はそれに自信を持ち（多少自信過剰に思えることはありますが）、その気持ちを表に出す、といったことが日本以上に認められているようです。

こうした違いの原因を、ある人はタイは外見も違う多くの民族が共生している社会だからだといい、ある人はタイは他人に干渉しない個人主義社会だからだといいます。それも理由の一つかもしれませんが、それだけでは説明できないとも思いますので、理由はもっと深いところにあるのかもしれない。

いずれにせよ、経済が成長し、社会が変容していく中で、こうした愛すべきメンタリティーまでが変わっていくことのないように願うばかりです。

西川弘達@バンコク

## 特集記事

### ～2008年度奨学金授与式報告～

報告者：伊藤 剛史

ワークキャンプについては96年に参加して以来、今年で11回を数えましたが、「奨学金の授与式」への参加は今回が初めての経験です。事務局では、「奨学金制度及び授与式」については前々から、その有り方や内容について議論がなされてきました。

- ・ 金額は妥当か。
- ・ 義務教育段階での必要性は薄いのではないか。
- ・ 授与式に経費がかかりすぎる。授与式は必要か。
- ・ 日本から出席する必要があるか。
- ・ どうすれば経費が削減できるか。

近年は「支給対象県を限定することによって経費を削減する」方向にあります。その他の課題についても自分なりの答えを出したいという思いを持って出発しました。

7月21日（月）朝、中部空港を飛び立ちバンコクでムさんと会い、その夜8時にサコンナコンに着きました。翌22日（火）から29日（火）にかけてプリラムまでの11県で授与式を行いました。そしてこの間に「奨学生の家庭訪問」を7人、ワークキャンプ関係の学校を2校視察するという強行軍でした。バンコクに戻ってからは西川会長に会い、キャンの会員である佐野さん、ナタポン君が日本語教師として勤める「泰日工業大学」を見学し旧交を深めてきました。

（現在ナタポン君は9月に来日し、埼玉県うらわ市の日本語国際センターで研修中です。来年3月まで。）

#### ◎【 授与式 】

奨学生は朝早く起きて先生や父母に付き添われ、不慣れな教育委員会の会議室へ来ます。私たちが正面の席に着くと緊張した顔は子どもらしい興味深い顔に早変わり。そのまなざしに包まれて私も次第に緊張がほぐれてゆくのが感じます。

教育委員会からの挨拶に続き、私のスピーチそして奨学金の授与、証明の写真撮影、ムさんからの手続きその他の話があり、約90分で終了。

終了後は付き添いの先生や父母から次々と個別の記念写真を求められます。「遠く日本から来た人」から奨学金を受け、一緒に写真を撮った事は我々が思う以上に大きな出来事であり「ある種の励み」になる事が想像されます。

次の会場へあわただしく向かう時、「もっと子どもたちと話が出来れば」といつも思いました。

## ◎【 家庭訪問 】

父は行方不明、母は出稼ぎで祖父母と暮らすジェー、祖母と二人で借りた田を耕すソンプーン、下半身不随の父と二人暮らしのルクポンなど共通する問題点は両親の離婚、出稼ぎ、行方不明などの家庭崩壊でした。祖父や祖母との寂しい暮らしですが、家事や家計を助け幼い弟妹の世話をしながら通学する健気な姿が見えてきます。

最も印象深い子は ワラポーン（ミウ）です（シーサケット、中学1年、女子）。両親離婚、祖父、祖母、そして一ヶ月前に母が置いていった腹違いの弟、妹の5人暮らし（母は近くの町で働いている）。

彼女は朝5時に起きて田圃へ出かける祖父母と弟妹のために朝食の準備をしてから学校へ。（学校から貸与された自転車は小学4年の弟が使用）帰宅後は宿題を済ませ夕食の準備をする。そして小学5年から始めたバイトへ出かける。バナナの葉を折り込んでお菓子を入れる小さな器を作る。左手が不自由であるが一日に400個つくり、一日16パーツを得る。彼女はそれで学費の全部をまかなってきた。

家庭訪問を奨励する教育省の方針によって、はじめて家庭環境がわかり、先生がキャンへ奨学金を申請したという。中学生とは思えない小さなミウは家に着くまで緊張のせいか一言もしゃべらなかつた。小走りで家に入ると子猫を抱いて笑顔で現れた。家は祖父が作ったもので木材を打ちつけただけで、床も壁も隙間だらけ、トイレは無く水浴びは近くの池を使うとのこと。

初めてワークキャンプに参加した10年前、弟や妹の手を引いて登校する子どもを見て、「この子らのために何でもしてあげたい」と思ったものです。しかし、今回現実を目の当たりにすると無力感に陥り、重い足取りで車へもどりました。

バンコクへもどり、西川会長と待ち合わせたサヤーム・スクエアでも、ナタポンと空港へ向かうときに立ち寄ったレストランの夕食を前にした時も何故かミウのことが思い出されました。「今頃はバイトかな」「家に帰った頃かな」と。皆さんも市場でならんだお菓子を見た時、その容器のバナナの葉を見た時、ミウのことを思ってください。事務局を預かる者として、ミウのみでなく奨学生一人一人の足取りをつかみ、奨学生とドナーとの関係をもっと深めてゆきたいと思いました。

前記の諸課題についての答えはまだ明確に出す事はできませんが、経済発展の光の中で農村の影を見落としてはならない事、義務教育に重点をおいたキャンの奨学金制度もまだまだ必要性が高いこと、発展する社会ではより高い学歴（高校、専門学校）が求められますが、社会状況に合わせて柔軟に制度を見直してゆくべき時期にきていることはわかりました。

## 活動報告

## ～2008年ワークキャンプ報告～

報告者：坂 茂樹

今年も8月23日から9月6日までタイ東部のサツケーオ県でワークキャンプが行われました。日本人参加者は大学生から60代の方まで多彩な顔ぶれで、通訳兼コーディネーターとして例年同様タイ人のムティターさんも参加してくれました。



今回のビルディングプログラムでは、中学校併設に伴い教室不足になった学校からの申請で、同学校敷地内に新たに二教室棟を建設しました。建設予算は65万バーツでしたが、学校側が村人の協力などで15万バーツを負担したのと、タイ人からの寄付が10万バーツあり、最終的にキャンヘルプタイランドからは40万バーツの支援となりました。また、株式会社オリックスから助成金50万円をいただくことができ、その寄付金も校舎建設費の一部として使わせていただきました。



キャンプが行われた学校は、バンコクから東へ170キロほど行ったタイとカンボジアとの国境に接するサツケーオ県の中央にあり、キャッサバやトウモロコシの畑に囲まれた典型的なタイの農村風景の中にありました。学校から3キロのところにはカオチャカンという石灰岩でできた大きな岩山の観光地があり、滞在中には何度か遊びに出かけることができました。生徒数は幼稚園から中学2年までの総勢240名弱でとても小さな学校

ですが、校長先生がとても教育熱心な方で学校の環境はとても整備されていました。特に子どもたちが使うトイレなどはとても清潔に保たれていました。また、学校ないでは豚やヤギや鶏、アヒルなどが飼育され、校庭にある池ではカエルや魚が養殖され、子どもたちの給食の足しになっていました。

今年は天候にも恵まれ、2週間の間、日本人ボランティアは穴掘りやセメント捏ねや針金縛りなどの単純な建設作業を手伝いとてもいい汗をかきました。滞在中に校舎の建設作業は70パーセントほど終わり、11月には完成予定とのことでした。寝る場所は学校の教室を2部屋お借りし、ゴザと敷いた上に寝袋で寝ました。食事は三食とも学校の女性の先生方に作っていただき、参加者は食材の下ごしらえや皿洗いなどを手伝いました。メニューは基本的にタイ料理ですが辛さは日本人用に調節していただき、すべてがとても美味しくいただきました。

先生方の協力もあり、今回のワークキャンプも無事に終了でき、参加者の皆様にも満足いただけるものになったと思います。タイの教育環境はここ10年でかなり改善されてきていますが、今回のキャンプで東北地方の田舎にはまだまだ支援を必要としている学校があるのだと実感しました。これからも学校からの要望を聞きながら支援の方法をいろいろと模索していきたいと思っていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



### ○ ワークキャンプ参加者手記 ○

#### ワークキャンプに参加して

今回キャンヘルプタイランドのワークキャンプに参加させていただいて本当にありがとうございました。普通の海外旅行では体験できないこと、学べないことが得られたと思います。まずメインの学校校舎建築は、日中非常に暑かったこともあり大変でしたが、セメント運びや針金作り、壁塗りなど、現地の大工さんに教えてもらいながらの作業が毎日楽しかったです。その他の活動としては、小中学生にひらがな、折り紙を教えたり、一緒に遊んだり、有意義な時間を過ごすことができました。



今回行ったバンクローンタマチャート学校は自然に囲まれた綺麗な学校で、ぶた、あひる、やぎ、牛、カエルなど色々な動物を食用として飼っていました。先生たちは住み込みで働いており、授業だけでなく、生徒の給食作りや、動物の世話、また私たちの食事の用意までしてくださり、とてもお世話になりました。

一緒に参加した方々の中には、教師の方やタイに住んでいる方、学生で長期ボランティアに来ている方など様々な人がいて、その中で貴重な話を聞いたことも非常に良い刺激になりました。私は学生のうちにこのような形でボランティアができて、さらにボランティアそのものの意味を深く考えるようになり、またこれから将来のために何ができるかを考えるきっかけになったので非常によかったです。機会があればまた参加したいです。どうもありがとうございました。

湯 浅

## ～ワークキャンプ反省会&写真交換会～

9月20日にキャンヘルプタイランド事務所にてワークキャンプ反省会&写真交換会が行われました。タイで一緒に過ごした仲間が久しぶりに集まり、皆さんが持ち寄った写真を見ながら思い出話に花が咲きました。反省会では事前研修会での情報提供やキャンプ中の現地での運営体制などについて、参加者の皆さんからいろいろな意見をいただきました。今後も、これらの意見を参考にしながら現地の人々や参加者の皆さんに楽しんでいただけるワークキャンプを実施していきたいと思います。反省会に参加してくださったみなさま、ありがとうございました。



バンクロンタマチャート学校の校庭はとても緑豊かでした。

お願い

### ～カサロンの家の家畜購入資金への寄付のお願い～

キャンヘルプタイランドが支援しているチェンマイ県にある山岳民族の子ども達のための寮(カサロンの家)では、子ども達の食費の足しになればと鶏や豚などの家畜を飼っていました。鶏の卵は子ども達のおかずになったり、余ったものは市場で現金化したりしていました。飼育していた親豚にはたくさんの子を産ませ、その子豚はカサロンの家周辺の山岳民族の家庭に無料で提供したりして貧困家庭の生活向上に役立てていました。

しかし、残念なことに今年になって飼っていた豚が病気のために死んでしまったのと、鶏も老齢化のために卵を産まなくなってしまうました。

そこで、カサロンの家を運営しているタイラフ財団からキャンヘルプタイランドへ新たに鶏と豚などの家畜を買うための資金援助の要請が来ました。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。詳しくは7ページをご覧ください。

## お知らせ

## ～奨学金ドナーの皆様へお知らせ～

現在、奨学金授与式で受け取った奨学生の申請資料や手紙を翻訳している段階です。

月に1回名古屋事務所で、タイ人やタイ語のできる方、またはボランティアの方々が集まってタイ語から日本語に訳し、全国から募った遠隔地の翻訳ボランティアの方々に在宅での翻訳をお願いしています。



枚数が多いことと地道に丁寧な翻訳作業を行っておりますので、ドナーの皆様へお届けできるのが12月初旬頃になる予定でございます。

1日でも早くドナーの皆様へお届けできる様、運営委員一同努めてまいりますので、何卒多少お時間かかることご承知いただきたくお願い申し上げます。

←翻訳会の様子

## お願い

## ～キャンヘルプタイランドへの寄付のお願い～

キャンヘルプタイランドでは各プログラムへの寄付を広く募集しています。ご協力くださる方は、同封の振込用紙または郵便局に備え付けの振込用紙に必要な事項および参加されるプログラム名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金ください。

※ カサロンの家への家畜購入費寄付の場合は、振込用紙の通信欄に「にわとりプロジェクト」とご記入をお願いします。

奨学金プログラム	(1 □ 10,000 円)
山岳民族支援プログラム	(1 □ 10,000 円)
ランチプログラム	(1 □ 5,000 円)
ビルディングプログラム	(1 □ 5,000 円)
キャンヘルプ基金	(1 □ 1,000 円)
会 費	(1 年 3,000 円)

寄付金・会費のお振込先は・・・

郵便振替口座

□座名：キャンヘルプタイランド

□座番号：00280-2-43793

イベント

～今後開催されるイベント情報～

○ 奨学金プログラム翻訳会

奨学生の資料の翻訳作業を行います。タイ語が分からない人でもご参加いただけますので、ぜひご協力ください。

日 時：11月16日（日） 午後

場 所：キャンヘルプタイランド事務所

※詳しくはキャンヘルプタイランドブログをご覧ください。

<http://canhelpthailand.blogspot.com/>

運営委員会

(2008年8月～2008年10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月16日	事務所	授与式報告。ワークキャンプについて
運営委員会	9月20日	事務所	ワークキャンプ反省会、
運営委員会	10月25日	オアシス	ワールドコラボ。NT 通信について

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 11月22日（土）13：00～（事務所にて）です。

編集後記

▼ タイに行くたびに必ず中古携帯電話ショップをチェックします。日本国内ではあまりなじみがないですが海外では中古携帯電話市場が活発です。なぜなら、携帯電話の中のチップ（SIMカード）を差し替えるだけで機種変更が簡単にでき、電話機を換えたかったら古いのを売ってすぐに新しいものを使えるシステムになっているからです。日本も最近ようやくそのようなシステムになってきましたが、まだ同じ通信会社の電話機しか使えませんし、いまだに携帯電話リサイクルとか言って電話機を回収して分解している会社もあります。どちらがエコかよく考えてほしいですね。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.43>

発行 キャンヘルプタイランド  
 発行人 西川 弘達  
 編集人 坂 茂樹  
 発行日 2008年10月26日  
 住 所 〒450-0003  
 名古屋市中村区名駅南2-11-43  
 NPOステーション内  
 Tel & fax 052-566-5131  
 (OPEN: 毎週火、木・土曜の13～17時)  
 E-mail: canhelp@npo-jp.net  
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>